

キーワード ニュータウン、世代融合、まちづくり支援

特定非営利活動法人

## まちのエキスパネット

### ミッション

誰もが人生の中で蓄えてきた知識や技を生かす場を提供し、地域の中で「学びあい」「分かちあい」「育ちあい」「伝えあい」「支えあい」ながら暮らすことが大切です。知識や技を育むことができ、活かす場所、活かされる場所があることで人は元気になり、地域も元気になります。まちづくり・交流会・障がい児の就労支援・情報発信などを通じて、フレキシブルな高蔵寺地区の地域づくりを目指しています。

設立年月 2003年2月(2007年11月NPO法人化)

メンバー数 32名

代表者名 治郎丸慶子

愛知県春日井市大留町5丁目29番地16

特定非営利活動法人まちのエキスパネット

TEL&FAX 0568-52-7315

expanet@angel.odn.ne.jp

<http://www.0568kasugai.net/~expanet/>



下：高蔵寺フォークジャンボリーの様子

◎私たちが行ったこと

愛知県春日井市は名古屋市の北部に隣接し、東西に長い市です。その東端に高蔵寺ニュータウンがあります。この高蔵寺ニュータウンは昭和43年に誕生しました。他のニュータウンと同様に少子高齢化が進んでいます。介護・福祉などの不安は増大し、近隣との付き合いも希薄になり、独居老人も増加するなど、まちの活力が段々となくなってきました。そのような折、人的ネットワークを築きながら地域に根ざしたコミュニティ新聞を長年発行してきた林と、障がい児のデイサービス実施などの子育て支援の活動を行ってきた治郎丸が出会いました。そして、「暮らしたいまち高蔵寺」を提案できるNPOをつくりたいと、意気投合しました。私たちは、「まちづくり」には、あらゆる世代が参加する必要があることに気付き、「こ



私たちが大切にしていること  
高蔵寺ニュータウンはNPO活動が活発です。それぞれが成熟した活動であるため、団体同士の連携が希薄である事が、活動すればするほど明らかになってきました。お互いの「立場が言わせる言葉」を踏まえて緩やかに繋がっていけるまちのプロバイダーの様な存在になることを目指しています。一番大切にしているものは、活動する仲間です。

ここで人生の最後まで暮らしたい」との思いを実現していこうと考えました。「高齢者と障がいのある本人と家族が安心して暮らせる仕組みづくり」を最大のテーマに、障がい児を育てその未来を切り開いていこうというパワーのある人やまちづくりに興味がある人、様々な分野で活躍するエキスパートの参加を得て、団体を設立しました。拠点は、ニュータウンから少し離れたところにある大正時代に建てられた木造2階建ての古民家をお借りすることにしました。古民家の持主ご自身、地域のまちづくりに奔走しておられ、私たちの活動に対しても好意的で、現在は団体の理事として参加いただいています。古民家は、事務所としてだけでなく、障がい児の親が運営するカフェや障がい児のデイサービス実施場所等として活用することにしました。

#### まちづくり支援事業

助成2年目は春日井市との協働元年となりました。ニュータウン40周年記念事業「高蔵寺ミニシンポジウム」、春日井市65周年記念事業「高蔵寺青春映画祭」「高蔵寺フォークジャンボリー」を市との共催で企画提案から行いました。「高蔵寺青春映画祭」ではまちを考える「高蔵寺ミニシンポジウム」を同時開催し、映画祭そのものを、まちへの想い、取り組みを共感してもらえるイベントとして実施しました。また、賑わいを生み出すため、特に名物のなかったこのまちで「高蔵寺フォークジャンボリー」を開催し、1万2千人ほどの観客を集めることができました。これらのイベントは新聞やテレビにも報道され、私たちの認知度も上がりました。フォークジャンボリーには企業からの協力や協賛もあり、スポンサーがたくさんつきました。私たちNPOへの信頼も高まり、来年度は企業から協働を求められています。継続事業として春日井市内外から人が集まるようなイベントに仕上げていきたいと思えます。出演する人、観客、企業、行政全てがこのイベントの主催者となるような巨大なコミュニティの創出へ、新たな気持ちでスタートを切ったところです。

上：高蔵寺青春映画祭オリジナル看板  
下右：高蔵寺青春映画祭と同時開催「昭とお宝グッズ展」  
下左：活動拠点 古民家「和っか」でのプレオープンイベント



上：活動拠点 古民家「和っか」  
下：児童デイサービス「こどもパレット」

苦しい気持ちを初めて聞いて下さって落ち着く事ができた。少し先がみえてきて頑張ろうという気になった。

障がい児者就労支援事業利用者の声

### 障がい児者就労支援事業

春日井市の療育現場ではノウハウや専門家不足が深刻です。私たちは児童デイサービス事業を立ち上げるにあたり、助成1年目は研修や勉強会を数多く実施してスタッフのチームワークを高め、県の認可を取得しました。愛知県コロニーで36年もこどもの療育や障がい者について関わられたスペシャリストを、サービス管理責任者に迎える事が出来ました。支援内容についても、市に評価され、市の子ども政策課や福祉課とも連携が成立し、検診などで問題のあった母子の相談を当NPOへとつなげる事が出来ました。そのためデイサービスは半年で一杯になり、来年度は支店を構えることになりました。

支店のリフォームも、市からの補助事業で費用の半額を負担していただける事になり、この2店舗で、予定している収入を大幅に上回りそうです。障がい児の子育て支援に関して、相談・療育そして、入園などへの橋渡し役を担うことができたと考えます。春日井市の年間3,000人ほどの出生数の中、約7%が発達障がいがあるとされており、そのこどもたちに対しての療育の現場を明るくし、地域理解を求める発信もしています。

また、障がいのあるこどもの親が運営するカフェでは、新しいスタッフも参加し、商品開発へスキルアップしています。未来に向かって夢を見られる事業であることから、デイサービスに通うお母さんたちの関心が高くなっています。カフェは、福祉関係者以外の一般の利用者も多く、障がい者の現状を自然に伝える場にもなっています。



下：まちツボニュース



### 広報誌発行事業

助成1年目は、「介護世代の応援情報誌 シャベリ場くらぶ」を毎月発行していましたが、助成2年目からは春日井市の共催を得て、「高蔵寺と暮らすまちツボニュース」を毎月発行しています。高蔵寺ニュータウンとその周辺地域へ、まちづくりNPOとしての活動

の紹介や、地域の現状を報告しています。このツールが根付き、地域住民に「このまちの未来」を考えるきっかけをつくったのではないかと思います。この事業は単独で多くの収益があがる事業ではありませんが、他の2つの事業の広報に多に役立っています。認知度が高くなったため、公共施設などへの設置、スポンサーの広告依頼などがコンスタントにあり、このコミュニティ紙への期待の高さを感じます。しかしながら現在の不況のため、広告料から収益を上げる事は考えにくい状況です（発行部数を増やそうとすると、またコストがかかり広告を値上げするとスポンサーの集まり具合が悪くなるという課題もあります）。広告主はまちづくりイベントへのスポンサーとなる可能性もあり、当NPOにとって大切な支援者であります。

### ◎私たちが伝えたかったこと

高蔵寺ニュータウンのまちづくりは世代融合で進めています。舗装もされていない住宅地にコミュニティと暮らしの工夫を築いてきた第1世代とこれからの我々とは、同じ土俵でまちづくりを語る必要があります。そうしないと、若い世代の参加も移住もありえません。暮らしやすいまちとは、各々のよりよい活動を緩やかに繋げ、お互い支えあう仕組みをつくる事にあります。

高蔵寺に、このまちならではのイベントが必要なのは、まちの歴史が無いからだと思います。40年経った今からが、まちに深みが出来、歴史をつくっていくチャンスだと思います。地域が連携し支えあい、5年後のまちの未来を見据え、市民もライフスタイルを変えていかなければならないと思います。

下：かすがいふれあいパブの様子

### ◎エピソード

春日井市との協働は難しかったです。協働元年と市長がうたったこの年は、とにかく役所と打ち合わせを重ねました。「かすがいふれあいパブ」という交流会も、そんな必要性から生まれました。机上論でまちを語っては何も生まれません。結局は人と人の付き合いです。口論もし、喧嘩にもなりかけましたが、このパブのお陰で、「まあ、本当はいい人だから…」と情にほだされる事も多くありました。児童デイサービスでは、事業の厳しさをスタッフは学ぶことになりました。「明日考えればいいや」といった言葉も3年目の今は聞かれなくなっています。



### ◎私たちの“これから”

まちづくり NPO 活動から生まれたものは、地域の人的ネットワークです。本当の意味での支えあいを実現するには、与えてもらう活動であってはなりません。私たちが培って築いていくこれからの事業やネットワークは私財ではありません。地域の宝となるよう、多くの NPO と共有したいと願っています。次世代への後継者も既に育っています。人的ネットワークで気をつけなければならないことは、横のネットはできても、時間軸のネットができない事です。第1世代から受け取ったこの暮らしやすい地域を、孤独な人が多いまちにしないよう、次世代のまちをつくり、次の世代へ継承する大事な繋ぎの役目がある事に気づきました。この気づきをより多くの人に繋げていくことが出来れば、支えあいの仕組みができていくのではないのでしょうか。この役を是非私たちが担っていきたいと思います。

こんな、おじさんにも、勇気や元気を与えてくれる K F J (高蔵寺フォークジャンボリー) 関係者の方々に感謝申し上げます。音楽が好きで良かったなと、つくづく思いました。高蔵寺フォークジャンボリー参加者の声

### ◎私たち自身で活動を評価

助成2年目は、春日井市の65周年事業の年にあたります。私たちの計画は、「協働」をテーマにしていた春日井市の目に留まりました。事業化の確立を目指す私たちには、いい機会でありました。活動は、マスコミにも何度も取り上げられ、賛同者も多く現れました。そんな時、助成金で実現された拠点事業は大変な成果につながりました。フル活動の2年間でありましたが、3年目からは、自主事業として、就労も可能となるスタッフが増えていきそうです。今は、障がい児就労支援事業からの資金を流用することなく運営できる仕組みを考えていくことが、課題として残っています。

左：日本各地と東南アジアの民芸展  
 右：児童デイサービス「こどもパレット」



◎収益事業としての事業性について

まちづくり支援事業、障がい児者就労支援事業、広報誌発行事業の3事業の関連について

これら3つの事業はそれぞれが補完し合って収益を高める構造になっています。まちづくり支援事業で行っているニュータウンに特化したイベントは、多くの参加者があり、まちの文化の一つとなるよう活動しています。その収益は次の更なる斬新な取り組みに効果的に使われます。まちづくり支援事業の広報とも言うべき役割を広報誌発行事業であるコミュニティ紙「まちツボニュース」が担っています。こちら、わがまちに関する記事で埋め尽くされているため関心度が高く、反応が良いことから広告の申し出が後を絶ちません。こちらの認知度が高くなると、障がい児者就労支援事業の「障がいのあるこどもたちの療育事業」や「児童デイサービス」の重要性や問題点などを広く地域市民に啓発することができます。福祉は、偏って見られがちですが、まちづくり支援事業を前面にし「暮らしたいまち」というテーマで活動しているため、「まちの中の福祉」が自然に受け入れられている手ごたえを感じます。どの事業も補完しあって存在しているため、相乗効果で、利用や参加が多くなっています。

高蔵寺ニュータウンの暮らしを考える、を3つの事業の共通テーマとして考えていますので、福祉もまちづくりの1つとして事業展開をする予定であり、まちづくり支援事業が、他の事業の入口となっているといえます。この形は大成功であったと思います。

事業のこれからの展開について

まちづくり支援事業

高蔵寺映画祭・高蔵寺フォークジャンボリー・各交流会などの重点事業を抜きだしていく予定です。映画祭は、まちづくりの媒体として高齢者の生きがいになっていますが、この先、先細りになる感があります。ハイビジョンテレビの普及で益々映画は家でみるものになり、来年以降の展開には二の足を踏んでいるのが現状です。映画祭から映画鑑賞会程度に変えていこうという意見が多く出されています。フォークジャンボリーや交流会などは、参加者のニーズも強く、企業や行政との協働事業として根付かせていく予定です。

障がい児者就労支援事業

児童デイサービスの新人スタッフのスキルアップに投資します。福祉は人不足であり、なかなか募集しても就労までいかない傾向があります。しかし仕事に生き甲斐を見つけられるような本物の療育指導を身につけることによって、息の長い未来のある仕事に変わります。こうした人材の育成と後継者を育てていく事に力を注ぎます(これが安定した信頼のおける事業所となる早道です)。カフェ事業においても同じで、未来の地域支援センター(障がいのある人が就労する場所であり余暇活動する場所)の職員となる人材をカフェで育成しており、スキルアップが一番の計画になっています。

広報誌発行事業

現在、発行部数は1万4千部です。新聞折込で配布していますが、もっと多くの高蔵寺ニュータウン市民に読んでもらうためには、部数を増やさなくてはなりません。今後は収益事業というより、上の2つの事業を盛り立てるための広報のツールとして投資する予定です。